

平成24年度当初予算編成における
政策的新規・充実予算枠要求事業の公開について

京 都 市

平成 23 年 12 月 2 日
行財政局財政部財政課

平成 24 年度当初予算編成における政策的新規・充実予算枠要求事業の公開 について

平成 24 年度予算編成に当たって、予算編成過程を積極的に公開し、市民の皆様方との情報共有を図る観点から、政策的新規・充実事業の要求内容等を公表します。今後、行財政局と各局とによる調整、未来まちづくり戦略会議における協議等を通じて、要求内容を精査・検討のうえ採択事業を決定し、予算案の確定時に、事業ごとに採択結果を公表します。

- 1 概要（公開の方法、要求額の状況等）
- 2 京都市の予算編成の仕組
- 3 平成 24 年度予算編成通知
- 4 局ごとの「政策的新規・充実事業」予算要求の内容

1 概 要

1 公開する情報

「政策的新規・充実事業予算枠」での要求に係る事業名，事業概要，要求額，所管課を公表します。なお，国の予算に関連する事項等について，今後，新たな要求事項の追加等が行われることがあります。

2 公開の方法

京都市のホームページである「京都市情報館」に掲載
市役所案内所，情報公開コーナー，各区役所・支所において資料を配布

3 公表日

平成 23 年 12 月 5 日（月）

4 採択結果の公開について

予算案が確定する平成 24 年 2 月に，要求項目ごとの採択結果を公表します。

<参考：要求額の状況等>

平成 23 年度並みの 30 億円程度の一般財源とすることを目途に，必要性や緊急性について検討するとともに，事業内容や所要額の精査，実施方法の工夫，有利な特定財源の確保などに努め，採択事業を決定します。

「政策的新規・充実事業予算枠」予算要求額

1 現時点において要求金額が確定している事業の要求額集計：一般財源 39 億円

	各局からの要求額（単位：億円）		
	経費	特定財源	一般財源
政策的新規・充実事業 予算枠要求総額	84	45	39
うち 投資的経費	63	42	21
うち 消費的経費	21	3	18

「政策的新規・充実事業」の
ために予定している一般財源
総額 30 億円

※特定財源：国からの補助金，市債など使い道が特定されている財源

一般財源：市税，地方交付税など使い道が特定されず，どのような経費にも
使用することができる財源

2 現時点において要求金額の確定していない事業

「知恵産業推進事業」，「中小企業経営支援体制の強化」，「国民健康保険事業特別会計繰出金」，「子ども医療等福祉医療制度の拡充」，「京の都市基盤防災・減災対策プロジェクト」，「防災対策の総点検を踏まえた防災対策の推進」，「市有建築物の耐震改修・アセットマネジメント」については，要求額算定中のため，集計には含めていません。

2 京都市の予算編成の仕組

1 予算編成における目標

平成 23 年 10 月に公表した「はばたけ未来へ！京プラン」実施計画（骨子）において、下記のとおり歳入歳出の主要な 4 分野ごとに、平成 27 年度までの今後 4 年間の予算編成における目標（財政運営の目標）を設定することとしています。

- <給与費>総人件費の削減 ～計画的な人員体制のスリム化～
 - ア 一般会計等の部門においては、部門別定員管理計画を策定し、事務事業の見直し等により定数削減を進めるなど、計画的に総人件費を削減します。
 - イ 公営企業部門においても、経営健全化をさらに推進し、職員数の削減等により総人件費を削減します。

- <投資的経費>公共投資の抑制，市債残高の縮減
～生産年齢人口 1 人当たり実質市債残高を増加させないよう，市債発行額を抑制～

全会計市債残高は，ピーク時（14 年度 2 兆 957 億円）から大幅に縮減しており，23 年度末見込みでは，1,769 億円の削減（23 年度末残高見込み 1 兆 9,188 億円）となります。引き続き，

 - ア 投資的経費を抑制し，一般会計の実質市債残高※を平成 22 年度末（9,817 億円）から 500 億円（5%）以上縮減します。

このため，毎年度の予算編成において，本市が返済に責任を持つ実質市債発行額と公共投資規模を抑制します。併せて，市債発行に当たっては，IR 活動を積極的に実施し，より低コストでの資金調達に努めます。
 - イ 他の特別会計，公営企業会計においても，投資的経費の抑制に努め，将来の市債の償還負担を軽減するため，全会計の実質市債残高を縮減するとともに，高金利の市債（企業債）の借換などによる資金調達コストの低減に努めます。

※ 実質市債残高とは，国が返済に責任をもつ臨時財政対策債を除く，本市が実質的に返済に責任を負う市債残高

- <消費的経費>事業見直し等による財源確保～社会福祉関係経費の自然増に対する財源の確保～

社会福祉関係経費の自然増（毎年 25 億円）に対する財政措置が国において講じられるまでの間，社会福祉関係経費，繰出金などを含む消費的経費のすべての予算について，改革を徹底し，毎年 25 億円の財源を捻出します。

なお，社会福祉関係経費の安定財源の確保は，これまでから粘り強く国に対して要望を続けています。今後もあらゆる機会を捉えて，一層要望を強めていきます。

- <歳入>資産有効活用等による財源確保
～京都市の強みを活かし，経済活性化に全力を傾注し，都市を成長させる等により，
税収確保を図ります。また，資産有効活用等により財源を捻出します。～

資産有効活用等により，本計画期間中，毎年 50 億円（平成 23 年度水準）を確保します。

2 給与費枠，投資枠，消費等枠

1のうち，歳出予算については，上記，給与費，投資的経費，消費的経費の分野ごとに局横断的な予算枠（給与費枠，投資枠，消費等枠）を設け，毎年度の予算編成において，枠ごとに財政運営の目標に基づく目安額を設定し，その範囲内での編成を行います。

また，投資枠については，市債発行額を縮減するため，投資規模を抑制するとともに，全ての事業を対象に全市的観点から優先順位を明確にし，実施事業を決定します。24年度予算編成における予算配分目安額は7ページの参考資料のとおりです。

なお，「消費等枠」では，各局長のマネジメントの下，現場のことを最もよく知る各局の部・課が主体となって，市民ニーズをよりきめ細かに反映した予算を編成する各局への財源配分方式（局配分枠）を採用しています。局配分枠の予算編成に当たっては，各局において行政評価制度を積極的に活用し，あらゆる観点から検討・検証を行い，事業を磨き上げていきます。局配分枠予算は，現在も各局において徹底的な議論を続けています。

3 政策的新規・充実事業予算枠

「政策的新規・充実事業予算枠」として，投資枠，消費等枠の内数で，30億円程度の一般財源を予定しており，「はばたけ未来へ！京プラン」の重点戦略の実施計画への掲載を予定している事業をはじめ，各局の予算要求の中から，優先順位の高い事業を採択します。

今回の予算要求の公開は，この「政策的新規・充実事業予算枠」での要求内容について対象としています。

各局区等の長様

副市長
(担当：行財政局財政部財政課)

平成24年度予算の編成について（通知）

平成24年度予算編成に当たっては、「はばたけ未来へ！京プラン」実施計画の策定作業と並行して編成に取り組んでいただいているところですが、各局区等における年間の財政需要を把握する必要がありますので、実施計画（骨子）の趣旨を十分に踏まえ、下記の諸点に留意しつつ、予算要求及び編成を進めていただきますようお願いいたします。

本市の中期財政収支見通し（平成24～27年度）においては、一般財源収入の伸びが見込めず、財政は依然として厳しい状況にあり、財政構造改革に全庁を挙げて取り組む必要があります。予算要求及び編成に当たっては、費用対効果をこれまで以上に意識し、市会及び市民の皆様への説明責任を果たせるよう、事業内容や執行方法の精査に努めてください。

記

1 予算編成手法等について

- (1) 平成24年度当初予算は、局横断的な予算枠である給与費枠、投資枠、消費等枠を設け、枠ごとに財政運営の目標に基づく目安額を設定し、その範囲内での予算編成を本格的に行います。
- (2) これに伴い、枠ごとの予算配分の目安額について、実施計画（骨子）において定めた財政運営の目標に基づき設定し、別紙のとおりお知らせします。
- (3) 「はばたけ未来へ！京プラン」の重点戦略の実施計画への掲載を予定している事業をはじめ、政策的新規・充実事業の実施に要する財源については、投資枠、消費等枠の内数とし、平成23年度予算並みの30億円程度（一般財源ベース）を予定していますが、厳しい社会経済情勢の下、要求に当たっては十分に精査を重ねてください。
- (4) 政策的新規・充実事業に要する財源には限りがあるため、各局においては事業内容を厳選するとともに、例年同様、平成24年度に実施を予定している全ての政策的新規事業等について、政策目的を明らかにした上で要求を行ってください。
- (5) 消費等枠については、目安額として示した一般財源の一部をあらかじめ局ごとに配分（局配分枠）しますので、配分された一般財源の範囲内で局配分枠予算の編成を行ってください。
- (6) 投資枠については、政策的新規事業等を含むすべての事業について、全市的観点から査定を行い、実施事業を決定します。

2 予算編成の基本方針について

- (1) 現在策定中の「はばたけ未来へ！京プラン」実施計画の検討状況を踏まえながら、予算要求及び編成を行ってください。
- (2) 市民との「共汗」で、京都のもつ「地域力」、「文化力」、「人間力」を引き出すことに留意するとともに、本市政策の「融合」により相乗効果、波及効果、経費節減効果を発揮できるよう留意し

てください。

- (3) 平成 24 年度予算編成においても、高齢化の進展等による社会福祉関係経費の増など、多額の財源不足が見込まれるため、各局においては行政評価制度等を活用し、事務事業の見直しを行ってください。
- (4) 市民の目線に立って改革に取り組む職員からの現場からの声やアイデアを実現するための、いわゆる「職員提案」型の予算についても積極的に要求を行ってください。

3 予算要求内容の公開等について

財政情報の公開を推進するため、平成 23 年度当初予算編成から要求内容を公開することとしており、平成 24 年度予算編成においても、政策的新規・充実事業の予算枠に係る要求内容について公開します。具体的な公開の時期等については別途お知らせしますが、市会及び市民の皆様にご議論いただく期間を十分確保するため、昨年度より公開時期を早めて実施しますので御留意ください。

4 「はばたけ未来へ！ 京プラン」実施計画「改革編」の更なる検討について

「はばたけ未来へ！ 京プラン」実施計画については、骨子を公表したところですが、今後、年度内の最終版策定に向けて、更なる計画の充実・磨き上げを行う必要があります。各局区等においては、引き続き、骨子の「改革編」に掲げる取組を中心に、全ての事業について幅広く点検・分析を行うとともに、課題が明らかとなったものについては見直しを推進し、最終版において方向性を示すことができるよう検討してください。

平成24年度予算編成における財政運営の目標と予算配分目安額

平成23年10月に公表した「はばたけ未来へ！京プラン」実施計画（骨子）に掲げる平成27年度までの今後4年間の予算編成における財政運営の目標に基づき、平成24年度予算編成における予算配分目安額を以下のとおり設定する。

給与費枠

平成27年度までの財政運営の目標：部門別定員管理計画を策定し、事務事業の見直し等により定数削減を進めるなど、計画的に総人件費を削減

平成24年度予算配分目安額：経費 1,160億円程度、一般財源 1,110億円程度

投資枠

平成27年度までの財政運営の目標：27年度末までに、一般会計の実質市債残高を平成22年度末（9,817億円）から500億円（5%以上）縮減するため、実質市債発行額（※）と公共投資規模を抑制 ※実質市債発行額とは、国が返済に責任を持つ臨時財政対策債を除く、本市が実質的に返済に責任を負う市債発行額

平成24年度予算配分目安額：経費 580億円程度、一般財源 130億円程度
市債発行額 250億円程度（投資的経費充当分）

消費等枠（公債費は除く）

平成27年度までの財政運営の目標：社会福祉関係経費の自然増（毎年25億円）に対する財政措置が国において講じられるまでの間、消費的経費のすべての予算について、改革を徹底し、毎年25億円の財源を捻出。

なお、社会福祉関係経費の安定財源の確保は、これまでから粘り強く国に對して要望を実施しており、今後もあらゆる機会を捉えて一層強く要望する。

平成24年度予算配分目安額：経費 4,900億円程度、一般財源 1,820億円程度

左のうち政策的新規充実予算枠として一般財源30億円程度（予定）